

平成 26 年度 事業報告書

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

<目的及び事業> * 定款 第3条・第4条より

(目的)

第3条 この法人は、優秀でありながら経済的理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等の人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付並びに奨学生に対する指導・助言
- (2) 育英に関する調査研究・情報提供事業
- (3) 大学生等の人材育成活動助成事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

I. 事業の状況

1. 大学生への奨学金支給事業 <公益事業 1>

(1) 大学貸与奨学生の採用・奨学金支給

平成 22 年度から、大学貸与奨学生の募集・採用を中止している。そのため、貸与奨学金は、21 年度以前に採用した医薬系の 6 年生以上の奨学生への貸与奨学金となる。

期中に貸与した貸与奨学金は合計 432 万円で、奨学生総数は 9 名となった。

昭和 40 年第 1 期奨学生採用以来、貸与奨学金の累計は 26 億 8,171 万円となった。

(2) 大学貸与奨学生の「成績優秀による奨学金返還免除生」選考

平成 27 年 3 月卒業予定の貸与奨学生のうち、6 年生前期までの成績表、生活状況報告書、大学推薦書を基に平成 26 年 12 月の選考委員による書類・面接選考を経て、理事長により返還免除生 3 名を決定した。(男性 1 名、女性 2 名)

返還免除総額は、864 万円となった。

(3) 大学給付奨学生<一般枠>の採用・奨学金給付

平成 25 年度に予約採用した 51 名のうち 43 名および 24 年度予約採用の一浪 4 名中 2 名が採用となり合計 45 名が 26 年 4 月に当財団指定大学・学部へ入学し、大学給付奨学生として正式採用した。(男性 14 名、女性 31 名。国立 32 名、公立 5 名、私立 8 名)

なお、平成 23 年度採用の 55 名、24 年度採用の 47 名、25 年度採用の 52 名と合わせて大学給付奨学生<一般>は、1 年生から 4 年生まで総数 199 名となった。
26 年度給付奨学金総額は 1 億 1,910 万円であった。

(4) 大学給付奨学生<芸術枠>の採用・奨学金給付

平成 22 年度募集から当財団の特色を出すための制度として芸術枠を新規導入した。指定の芸術系大学・学部へ進学を条件とする以外は、一般枠と同様の条件で募集している。
平成 25 年度に予約採用した 7 名のうち 3 名、および一浪 3 名のうち 1 名の合計 4 名が 26 年 4 月に当財団指定の芸術系大学・学部へ入学し、大学給付奨学生として正式採用した。(男性 1 名、女性 3 名。国立 2 名、公立 1 名、私立 1 名。)

なお、23 年度採用の 5 名、24 年度採用の 5 名、25 年度採用の 9 名と合わせて大学給付奨学生<芸術枠>は、総数 23 名となった。26 年度給付総額は 1,350 万円であった。

(5) 大学給付奨学生<震災支援枠>の採用・奨学金給付

平成 25 年度に予約採用した 2 名のうち 2 名が 26 年 4 月に当財団指定の大学・学部へ入学したので、大学給付奨学生として正式採用した。(一浪 1 名は辞退)
(男性 1 名、女性 1 名。国立 0 名、公立 0 名、私立 2 名。)

なお、24 年度採用の 3 名、25 年度の 3 名と合わせて大学給付奨学生<震災支援枠>は、総数 8 名となった。26 年度給付総額は 540 万円であった。

(6) 大学給付奨学生の予約採用(平成 27 年 4 月入学)

一般枠・芸術枠・震災支援枠とも、募集を平成 26 年 6 月に行い、奨学生選考委員会の書類選考、選考委員面接を経て一般枠 61 名、芸術枠 9 名、震災支援枠 13 名が採用内定した。

応募資格は、当財団が指定する公立高等学校の 3 年生で成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる人材。

採用内定者のうち、当財団指定の大学・学部へ平成 27 年 4 月に入学した者に対し、入学一時金 一般・芸術枠は 20 万円、震災支援枠は 30 万円、月額 6 万円の奨学金を最長 4 年間支給する。

なお、採用内定者が 27 年 4 月に指定大学・学部への入学を果たせなかった場合は、一浪として 28 年度に指定大学・学部へ入学すれば、大学給付奨学生として正式採用される。

2、大学院生への奨学金給付事業 <公益事業 1>

(1) 大学院奨学生（国内・修士課程）の採用・奨学金給付

大学院奨学生（国内）は平成 25 年度採用より当財団の大学給付奨学生に限定して募集を行い、奨学生選考委員による選考委員会・面接選考を経て、理事長が 5 名の採用を決定した。

（男性 3 名、女性 2 名。 国立 4 名、公立 0 名、私立 1 名）。

25 年度採用の 9 名および 24 年度採用で 1 年の休学を終え復学した 1 名と合わせて、大学院奨学生は 15 名となった。

給付金額は月額 8 万円で、期中の給付奨学金総額は 1,376 万円であった。

(2) 大学院奨学生（外国人留学生）の採用・奨学金給付

大学院留学奨学生の採用は平成 26 年度、中国から 5 名の学生が推薦され、奨学生選考委員会を経て、5 名全員が選考された。26 年 10 月から 5 名が留学開始となり、既に採用されている 16 名と合わせて計 21 名となった。給付金額は月額 16 万円で、期中の給付奨学金総額は 2,976 万円であった。

3、奨学生の研修・交流会事業 <公益事業1>

(1) 「奨学生の集い」の実施

「奨学生の集い」は全奨学生を対象に、奨学生の研修と相互交流及び奨学生と選考委員・事務局との交流を目的に、毎年、開催している。内容は前半が講演会、後半は交流会の構成となっている。

平成26年度の「奨学生の集い」は、11月に東京会場に全奨学生、大学関係者、及び奨学生OB・OGなど252名が参加して行われた。うち、現役奨学生は209名であった。

- <開催日・会場> 平成26年11月22日(土) 東京汐留 電通ホール
- <講師> 前内閣総理大臣 野田 佳彦 氏
- <講演テーマ> 「野田政権482日間を振り返って」

(2) 大学院奨学生セミナーの実施

大学院奨学生に対しては、8月にセミナーを実施した。このセミナーは大学院奨学生(国内/留学大学院生)の研修と交流を目的とするもので、研究発表会、外部講師の講演、交流会の構成となっている。大学院奨学生12名と大学院留学生15名の27名が参加し、研究紹介、グループ討論等の中で、奨学生相互の研鑽と親睦が図られた。

- <開催日・会場> 平成26年8月9日(土)、10日(日) クロスウェーブ幕張
- <講師> 元電通 シニアクリエイティブディレクター 藤島 淳 氏
- <講演テーマ> 「世界に通用するコミュニケーションは、3つのキーワードでできている」

(3) 大学給付奨学生対象のセミナーの実施

大学給付奨学生の1年生48名、2年生52名と3年生47名(計147名)が参加して、平成26年9月13日(土)、14日(日)にセミナーを葉山の湘南国際村センターにて一泊二日で実施した。セミナーは学年別研修で、それぞれ経験豊かな講師によって行われた。

- 1年生対象には、アイディア社のダーキー氏によるロジカルコミュニケーション・スキルとプレゼンテーション・スキルの研修
- 2年生対象には、法政大学 児美川教授による課題解決力の養成研修
- 3年生対象には、我究館 熊谷館長による自己分析とキャリア研修

また、1年生と2年生の混成によるグループディスカッションや奨学生間の交流も図った。

(4) 修了生交流会の実施

平成26年度卒業・修了予定の大学・大学院給付奨学生および返還免除奨学生の今後の活躍を期待して、当財団の選考委員や大学関係者など来賓出席のもと、27年3月14日(土)に東京で「修了生交流会」を開催した。

4、育英に関する調査研究・情報提供事業 <公益事業1>

(1) 会報誌「IKUEI NEWS」の発行

「大学の今がわかる情報誌」として、高等教育関係者や奨学生への有益な情報提供を目的に、会報誌「IKUEI NEWS」を年間4回（4月、7月、10月、1月）発行した。奨学生（OB、OG含む）、大学関係（教育研究者、学長室、学生部）、全国の図書館、教育研究機関などを配布先とし、毎号企画の充実を目指した。（各号約4,000部配布）

	発行月	特集テーマ	取材大学
Vol. 66	平成26年4月	就職活動を通じた社会人としての学び	福島大学 他
Vol. 67	同 7月	異世代との人間関係で対人関係能力を培う	奈良女子大学 他
Vol. 68	同 10月	大学生研究フォーラム2014	—
Vol. 69	平成27年1月	アクティブラーニング型授業を履修する	法政大学 他

(2) 大学生研究フォーラムの開催

大学生研究の深化と課題発見のため、京都大学高等教育研究開発推進センターと東京大学大学総合教育研究センターとの3者共催で、7月27日（日）に京都大学百周年時計台記念館にて、教育学・心理学・青年若者論等の教員、研究者300名余の参加のもと第7回大学生研究フォーラムを開催した。フォーラムでは、「変貌する大学の入り口と出口：大学・企業に何ができるか」をテーマに、基調講演やピースセッションなどが行われた。

また、翌7月28日（月）には、「高校教員のためのシンポジウム」も併催し、200名余の全国の高校教員が参加した。

(3) 大学生のキャリア意識調査の経年変化の報告

2007年、2010年、2013年と3年毎に京都大学溝上研究室と実施してきた大学生キャリア意識調査の経年変化について、東京大学中原研究室も参加して分析を行い「大学生のキャリア意識調査2007-2010-2013年の経年変化」報告書としてまとめ、当財団ホームページにて公開した。

5、大学生等の人材育成活動助成事業 <公益事業2>

(1) 助成事業

平成 25 年 10 月に首都圏エリア（1 都 3 県）の非営利組織を対象として活動計画を広く募集し、26 年 2 月に助成団体選考委員会にて書類選考・面接選考を行った。平成 26 年度は、応募総数 43 件から選考された以下の 10 団体による学生などを対象とした人材育成活動に対して、1 年間の資金助成を行った。

<選考基準> 大学生等の人材育成効果に加えて①応募団体の過去の活動実績 ②活動の目的・有用性 ③実施計画の妥当性 ④計画遂行力 など、総合的に評価する。

(助成金額 100 万円)5 件

- ・ NPO さいたま NPO センター 彩の国 NPO・大学ネットワーク インターンシップ プログラム
- ・ NPO 学校インターネット教育推進協会 次世代の情報社会を担う人材育成プロジェクト
- ・ NPO ピルコン 正しい性知識に関する普及啓発事業
- ・ 中央大学被災地支援学生団体 復興支援を通じた地域防災リーダー育成
- ・ 上智大学ボランティアセンター 東日本大震災復興支援ボランティア事業

(助成金額 50 万円)5 件

- ・ NPO I am OK の会 発達障害児への遊びと学びの支援を通じた人材育成
- ・ NPO キズキ ひきこもり経験者への学習支援を通じた人材育成
- ・ NPO アクションポート横浜 NPO インターンシップ事業
- ・ リカバリーキャラバン隊 精神障害者のリカバリー支援者養成事業
- ・ 法政大学ボランティアセンター 岩手・宮城 被災地スタディーツアー

(2) 平成 27 年度助成団体の募集・採用

平成 27 年度は 26 年度同様に募集、応募総数 35 件から助成団体選考委員会にて書類選考・面接選考を行い、以下の 11 団体の活動を採択した。なお、26 年度助成対象で、27 年度も助成対象として継続採択された団体は 4 団体となった。

(助成金額 100 万円)6 件

- ・ 日本 YWCA ひろしまを考える委員会 ひろしまを考える旅 2015
- ・ NPO 大学宇宙工学コンソーシアム UNISEC ワークショップ 2015
- ・ NPO ハナラボ 学生記者養成プログラムの開発と普及事業
- ・ 早稲田大学 (WAVOC) 東日本大震災復興支援プロジェクト
- ・ 中央大学ボランティアセンター 防災を伝承し地域を巻き込む学生の「触媒力」向上プロジェクト
- ・ 上智大学ボランティアセンター 東日本大震災復興支援ボランティア事業

(助成金額 50 万円)5 件

- ・ NPO フリースクール全国ネットワーク フリースクールスタッフ・不登校支援者養成連続講座 in 山口
- ・ NPO ピルコン 児童養護施設における性教育教材開発事業
- ・ (公財) ジェスク音楽文化振興会 第 36 回霧島国際音楽祭 2015
- ・ 立教大学コミュニティ福祉学部 東日本大震災復興支援プロジェクト
- ・ 法政大学ボランティアセンター 岩手・宮城 被災地スタディーツアー